

個人研修報告 in Netherland



社会福祉法人飛鳥学院 児童養護施設飛鳥学院
児童指導員 竹島隆二

3カ国目は世界一子どもが幸せな国と言われるオランダ。ここでは、子どもの電話相談を受ける機関への見学とインタビュー、そして貧困家庭に対する支援を行っているフードバンクにてボランティアをさせて頂き、貧困家庭(社会的養護を必要とする家庭!)への支援・介入、子どものSOSに対する対応についてヒントを探った。

1. De Kindertelefoon ～児童相談電話～ 【ユトレヒト】

児童相談電話は1979年から始まる。疑問や問題を抱えている子どもはもちろん、おしゃべりしたいだけの子も匿名で電話やチャットができる。対象年齢は8歳から18歳だが、18歳から24歳という青少年もやはりたくさんの悩みを抱えているのでその青少年にも対応できるように「Kindertelefoon」とは別に「Alles oke support lijn」という活動もしている。児童相談電話と聞くと、日本の児童相談所を思い浮かべるかもしれないが少し違う。この団体はいわゆるNPO法人で正規スタッフは60人ほどで、実行部隊は600人の訓練されたボランティア達だ。全てが深刻なわけではない、中には「歌を歌ってくれない?」という電話もある。そういった子ども達の気持ちに寄り添い、本当に子どもが訴えたい思いを引き出してあげることが大事なのだと、所長は言う。オランダにおいて相談のファーストステップはこのKindertelefoonである。ここから他の相談機関につなげたりと非常に重要な役割を担っているのだが、それが全てボランティアで成り立っているというのが驚きである。最後に所長のロリーンさんに「なぜ、オランダは子どもが世界一幸せな国と言われると思いますか?」と質問した。ロリーンさんが思うに… ここから先は報告書にて(^_^)



僕&ロリーンさん&Tohkoさん(通訳)

[\(やはり Tohko さんも素敵な通訳者☆彡\)](#)

2. Stichting Hoop voor Morgen ～フードバンク～ 【アムステルダム】

この財団は英語で訳すと「ホープ・フォー・トゥモロー財団」と訳され、「明日への希望」という意味だ。私は、オランダでの滞在期間のほとんどをこのフードバンクボランティアで過ごした。貧困家庭における支援について肌で感じてみたかったからだ。ただ、国の支援とは違い財団の代表であるレジーナ・マック・ナックさんを中心とした多くのボラティアによる運営だ。自治体からは補助金を一切受けていない。理由は自治体から助成金をもらって運営するとなると、自治体の定める毎月〇〇円以下の収入等、様々な証明を出さないといけない。本当に困っている家庭にはそんなことを考えたり、行動したりする余裕がないことを知っている。だから、自治体からは援助を受けずに、寄付とボランティアのみで本当に貧困で困っている家庭を助けているのだ。ボランティアは総勢約80人、2000世帯近くの貧困家庭に食料の支援を行っている。私は毎日たくさんの仕分けをし、身体中筋肉痛になるほどであった。



1家庭に1BOX

ここに毎日来て感じたことは、貧困というあまり人に知られたくないいわゆる「弱み」みたいな部分をちゃんとさらけ出し、それをちゃんと受け取り、何とかしようとする誠実さがここにはある。だから地域の皆が安心して「弱み」を見せれるのかなと感じた。そんなコミュニティーがここにはあり人と人とのつながりの原点みたいなものを感じたように思う。身体はハードであったがその空気感は間違いなく気持ちの良いものであった!

番外系高

Part. 3

さて、オランダでも大人の社会科見学といきましょう！

芸術と水(と自転車)の国オランダは見どころいっぱい！基本的には教養を高めようと思っ
ていますが…。
数少ない時間でどこ行くか迷っちゃいます。そっだ！自転車借りて全力疾走で全部行っちゃええ～

まずは愛車ゲット！その名も「JAKOB」こいつとは大雨の日も暴風の日も暑い日も毎日一緒に過ごし、何キロ走ったことか…



●オランダの摩訶不思議

オランダは色々なことが合法で…



SEX ミュージアムと名のついた性の博物館があったり…



そこら中にカジノがあったり…もうわけわからへんわっ！！



「coffee Shop」で書いてあのに合法薬物売ってたり…

●最後にとっても心地よかったステイ先紹介



ホストのイケオジ！
名前も“OZZY”



そしていつも帰った
ら出迎えてくれて膝
にのるジェイシーと
羨ましそうに廊下か
ら見るクレヨン☺

